

新農薬実用化試験＜茶＞成績検討会を開催

調査企画部

本年度も新農薬実用化試験の成績検討会シーズンがはじまりました。例年、茶分野がそのオープニングとなります。本年は10月18日～19日に都内日暮里のホテルラングウッドに全国の茶業試験場や委託会社の担当者など約150名が参集し、本年度委託された殺菌剤・殺虫剤の薬効が検討されました。

冒頭、上路理事長より「本年は例年になく災害の多い年で、試験に大変ご苦労されたことと思う。農薬取締法の改正で登録制度が大きく変わる点もあるが、新農薬実用化試験は今後もこれまで同様に推進していく。本年の委託件数は病害虫害とともに昨年より10件ほど増加した。昨年から薬剤情報バンクを通じて試験データが全国の防除指導に積極的に活用されており、そのためにしっかりと成績検討が重要。」などと挨拶しました。

会議は病害分野の成績検討からはじまり、前年まで委員をつとめられた石川上級研究員に代わり、本年から山田憲吾上級研究員（農研機構果樹茶業研究部門茶業研究領域茶病害虫ユニット）が委員となって検討がすすめられました。本年は例年よりも降雨が多いなど難しい気象条件にもかかわらず的確に試験が行われ、判定不能となった試験は皆無でした。午後からは虫害の成績検討に移り、佐藤安志ユニット長（所属は同前）と野田隆志技術顧問（当協会信頼性保証室）が委員となって検討がすすめられました。本年は試験法や結果



挨拶する上路理事長



山田憲吾委員



佐藤安志委員

の評価をめぐって大きな議論となる場面はありませんでしたが、BT剤のチャノホソガに対する散布時期をめぐり、若齢幼虫は孵化後に葉に潜行するため葉縁潜行から三角巻葉に移行するタイミングが重要との指摘がありました。また、次年度の試験法改訂について、コミカンアブラムシの対照薬剤にウララDFを追加することが了承されました。

会議終了後に開催された情報交換会では、挨拶にたった佐藤委員より「我が国の茶病害虫防除プログラムは世界一でこの検討会を中心とした連携システムの成果である。」とのお話をいただき、熱心な意見交換がはからされました。



検討会場の様子

新農薬実用化試験成績検討会 これからの開催スケジュール

稻・野菜等

北陸地域	10月 30日 13:00～31日 12:00	金沢「ホテル日航金沢」
東北地域	11月 1日 13:00～ 2日 16:00	盛岡「ホテルメトロポリタン盛岡」
北海道地域	11月 7日 9:00～ 8日 12:00	札幌「ホテル札幌ガーデンパレス」
近畿中国地域	11月 12日 9:00～13日 17:00	大阪「メルパルク大阪」
九州地域	11月 15日 9:00～16日 17:00	熊本「KKRホテル熊本」
四国地域	11月 21日 13:00～22日 16:00	愛媛「メルパルク松山」
関東地域	11月 26日 10:00～27日 16:00	東京「ホテルラングウッド」
東山東海地域	11月 28日 10:00～29日 16:00	東京「ホテルラングウッド」

寒冷地果樹

落葉果樹	12月 3日 13:00～ 4日 17:00	東京「ホテルラングウッド」
常緑果樹	12月 5日 10:00～ 6日 (菌)15:00 (虫)12:00	東京「ホテルラングウッド」
芝草	12月 6日 (菌)15:30 (虫)13:00～ 7日 12:00	東京「ホテルラングウッド」
生物農薬	12月 10日 10:00～11日 12:00	東京「ホテルラングウッド」
	12月 13日 (菌)13:00 (虫)10:00～17:00	東京「ホテルラングウッド」

※検討時間帯が異なる場合は、虫・菌それぞれの時間を記載した。